

神の契約・民・記念・信仰の象徴としての「十二の石」

▶ヨルダン川の十二の石(ヨシュア記 4 章) & 出エジプト記 24:4

「神の救いと契約の信実を後世に伝えるための記念のしるし」。

- ・イスラエルの十二部族を象徴。
- ・ヨルダン川を渡って約束の地カナンへ入る奇跡の記念
- ・神が導き、約束を果たされたことを後の世代に教えた記念碑

▶エリヤが築いた十二の石の祭壇(列王記上 18 章)

「神の民の一致」および「真の礼拝の回復」を意味する。

- ・バアル信仰に対抗して、真の神の民（十二部族）を思い起こさせる。
- ・分裂王国の時代でも、神の視点ではイスラエルは一つの民であることを象徴。

出エジプト記	24:4 モーセは主の言葉をすべて書き記し、朝早く起きて、山のふもとに祭壇を築き、十二の石の柱をイスラエルの十二部族のために建てた。
ヨシュア記	◆記念の十二の石
ヨシュア記	4:3 彼らに命じて、ヨルダン川の真ん中の、祭司たちが足を置いた場所から、石を十二個拾わせ、それを携えて行き、今夜野営する場所に据えさせなさい。」
ヨシュア記	4:8 イスラエルの人々はヨシュアの命じたとおりにした。主がヨシュアに告げられたように、イスラエルの人々の部族の数に合わせて、十二の石をヨルダン川の真ん中から拾い、それらを携えて行き、野営する場所に据えた。
ヨシュア記	4:9 ヨシュアはまた、契約の箱を担いだ祭司たちが川の真ん中で足をとどめた跡に十二の石を立てたが、それは今日までそこにある。
ヨシュア記	4:20 ヨシュアはヨルダン川から取った十二の石をギルガルに立て、
列王記上	18:31 エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルである」と告げられたヤコブの子孫の部族の数に従って、十二の石を取り、

▶大祭司の胸当ての十二の宝石(出エジプト記 28 章)

「胸当てには十二の宝石をはめ、イスラエルの子らの十二の名を記す」(出エジプト記 28:17-21)

- ・各宝石はイスラエルの十二部族の名を象徴。
 - ・大祭司がそれを胸に付けて主の前に出ることは、神が民一人ひとりを心に留めておられること、祭司が民全体を代表してとりなしの祈りを捧げることを示す。
- 「神と民の関係（契約の絆）」と「とりなしの象徴」。

▶新しいエルサレムの十二の土台の石(黙示録 21 章)

「城壁の土台には十二の宝石があり、それぞれに十二使徒の名が記されていた」(黙示録 21:14,19-20)。

- ・新約の民（教会）を象徴。
 - ・十二使徒が信仰の土台として建てられたことを表す。
 - ・永遠の都＝神の救いの完成の象徴。
- 「神の国の永遠の基礎」と「救いの完成の象徴」。